

第1回 横浜市救急医療センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	平成30年8月9日(木) 15時～16時30分
開 催 場 所	横浜市健康福祉総合センター 6階会議室
出 席 者	おち委員、恩田委員、河原委員、林委員
欠 席 者	遠藤委員
開 催 形 態	公開(傍聴者0人)
議 題	1 委員長及び委員長職務代理者の選出について 2 会議の公開・非公開について 3 評価委員会スケジュール(案)について 4 評価方法及び評価基準について(案)
決 定 事 項	1 委員長は河原委員、委員長職務代理者は林委員とする。 2 委員会は、第1回の議事、第2回の議事、第3回の議事とも公開とする。 3 スケジュールは、事務局の原案どおりとする。 4 評価基準につき、小項目評価を事務局案の3段階から5段階とする。 小項目の評価につき、評価シート内にコメント欄を設ける。 評価項目につき、夜間急病センターの診療記録が適切に管理されているか、 評価項目を追加する。 (I 総則 3個人情報保護につき、診療記録の管理を追記)
資料・特記事項	1 資料 (1) 委員名簿 横浜市救急医療センター条例 横浜市救急医療センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 救急医療センター概要 (2) 第三者評価制度概要 (3) 横浜市救急医療センター概要 (4) 評価委員会スケジュール(案) (5) 評価基準及び評価基準について ・評価シート(ひな形) ・評価基準項目一覧 2 特記事項 第2回の選定評価委員会の日程については調整の上、後日連絡する。

## 事務局からの説明等

### 1 選定評価委員会の趣旨について

・選定評価委員会の設置根拠、選定評価委員会の運営に関することについて事務局が説明した。

## 議事・質疑要旨

### 1 委員長及び委員長職務代行者の選出について

- ・河原委員が委員長に推薦され、他の委員も賛成した。河原委員が林委員を職務代理者に指名した。

### 2 会議の公開・非公開について

- ・事務局案（第1回の議事は公開。第2回の議事のうち、救急相談センター内の現地確認では個人情報に配慮して公開、第3回の議事は公開）について了承された。

### 3 評価委員会スケジュール（案）について

- ・事務局より説明し、了承された。

### 4 評価方法及び評価基準について（案）

- ・事務局より説明した。

資料5「3 評価の基準（2）項目の評価基準」にある表の判断基準について、「A 8点～15点」「B 1点～7点」に訂正して説明。

（林委員）

- ・評価項目の数が変われば、点数の配点も変わるのか。

（事務局）

- ・その通りである。中間点を基準とすることを案としたい。

例えば4項目であれば、満点で計12点、7点からA評価とするような案を考えている。

（恩田委員）

- ・評価シート内の小項目をABCで評価入力すれば、自動的に項目評価が計算されて入ると考えてよいか

（事務局）

- ・システムチックなシートの作りにはなっていないが、委員の方々は、小項目評価を入れていただければ、項目評価が決まると考えていただいて差支えない。

（おち委員）

- ・過去4年間の評価をするということだが、この先、4年間で医療事情が変わることも考えられるので、たとえば電子カルテではない場合、電子化やクラウド化等、状況が変わった時を考える必要があるのか。

今は基準を満たしているけれども、今後、希望として求めたいという場合はそこまで評価したほうが良いのか。

（事務局）

- ・今回の評価は、これまでの運営や実績に対するもの。これから先を見越しての考えは、評価シート内に委員会意見としての項目を設けているので、そこに入れ込んでいただければと考えている。

(恩田委員)

・目的として施設運営の継続的な改善につなげることが挙げられているが、点数は今現在の評価であっても、改善という観点の意見はシート内に記入すればよいのか。

(事務局)

・その通りである。評価という意味では、現在の実施状況でしかできないと考えている。さらに工夫ができるのでは、という意見は別途記入していただきたい。

(おち委員)

・希望という意味では、次の評価の時に、反映されていることを評価できれば、継続的な改善につながるのではないか。そのようなシステムとなっているとよい。

(事務局)

・最終的な評価報告書では、ここをこうすればもっとよくなる、等の委員の方からの希望も盛り込んだ形にできれば、と考えている。

(河原委員長)

・話は変わるが、資料5の評価基準内の記載に 指定管理者として要求される水準と基準と意味が重複しているが違いはあるのか。また、Aが及第点と考えればよいのか。

(事務局)

・基準と水準の違いはないので、表現を改める。Aが及第点である。S評価も考えたが、A以上の評価判断が難しいかと考えて3段階評価とした。

(林委員)

・今の配点の考え方だと小項目がA、A、B、B、Bとなった時、合計点で自動的にA評価になってしまう。Bが多いのに、結果がA評価だと見え方が悪いのではないか。

(河原委員長)

・点数の評価と合わせて、文章で、なぜこの評価になったのか、補足が必要ではないか。

(事務局)

・Bが多いのにA評価といった配点にならないよう、調整する。

(林委員)

・例えば小項目評価を5段階評価にして、3が1つでもあれば、項目評価をBにするような形にすれば、厳しく評価しているという見え方になる。5または4で評価がそろっていればA、ただし3があればBという評価である。

(河原委員長)

・重要なところがSであれば、もっと評価できる。5段階にすれば、意見が反映されやすいのではないか。

(おち委員)

・もし、Bが多いのに、Aの評価になってしまったら、委員のみなさんの合議の中で、調整があればいいと考える。

(河原委員長)

・3回目の会議で調整かと思うが、オール4でも委員の意見を踏まえてAとした、という意見が最終報告書に載ればよいと考える。

(事務局)

・お配りしている資料では、3段階評価の場合の考え方を記載しているので、評価の考え方を事務局で再度検討する。小項目評価は5段階で問題ないか。

(恩田委員)

・5段階だと真ん中の評価によってしまうのではないか、という懸念がある。

(事務局)

・実は、事務局案の作成段階で、その意見も考えたため、3段階とした経緯がある。だが、委員の方の総意は細かくしたほうが良いという意見なので、小項目の評価を4～5評価にした場合の項目評価の形を事務局で検討する。小項目は5段階で、項目評価は、3段階でも良いか。

(河原委員長)

・小項目と評価の段階をあわせても良いのではないか。

(恩田委員)

・今の資料だと、さらに上の評価として“「とても」充実している。”という評価基準があるかと思う。5よりは4段階のほうが評価しやすいかと思う。

(林委員)

・小項目をまとめた評価については、極端かもしれないが、○か×、その上、△があればいいのではないか。概略的に総じてこの項目はこうである、という評価ができるのではないか。

(恩田委員)

・S～CかA～Dかはわからないが、小項目の評価がありその上○、×、△のような評価になるという考えか。

(林委員)

・この組織では、○か、少し不安があるので△、というような評価である。

(河原委員)

・すごくよくやっていて、褒めたいけれども、Aだと足りない、という評価もあるかと思う。もう1段階あってもいいかと考える。

(事務局)

・小項目S～Cの中で、Sがあれば、総じて項目評価がSになる、というような評価の考え方を委員会の中で決めていければよいかと考える。案は3段階で考えているが、段階を増やすかどうかは委員会の中で決めていただければ、その考えに合わせて報告書になる。

(林委員)

・とてもいい場合は、3段階評価でも言葉で補って評価してあれば、何を評価したのか報告書を読んだ人が理解できる。悪い場合は、Cになってしまったら、何がダメなのかきちんと表記されているべきかと考える。

(恩田委員)

・市民にオープンになるものは、評価シートと言葉での報告書になるのか。

(事務局)

・その通りである。総括と合わせて、項目分の評価シートが報告書に入る。

(恩田委員)

・私が市民の立場であれば、文章で書いてあるよりは、評価シートのようなものが見やすいと感じる。評価シートにコメントが入ってくる形のほうが良いと考える。

(事務局)

・今のひな形様式にある選定評価委員意見部分にコメントを入れるか、それぞれの項目にコメント欄を設けるか、様式を修正することは可能である。

(おち委員)

・私は市民としてよく報告書等を読むので、文字が多いとなかなかわかりづらいのはいか。レーダーチャートのように、ビジュアル化して見える形にできないか。市民としてもわかりやすいかと思う。

(恩田委員)

・項目の数が2～3だと、レーダーチャートにするには項目数が足りない。いくつかそのような項目が散見される。

(事務局)

・項目を今以上に増やすことは、厳しいため、ビジュアル表現は難しい。

(林委員)

・病院が評価される時の評価表は、小項目、中項目があり、小項目5段階の数字が入っていて、それに対するコメント欄がそれぞれ設けられている。

そして、まとめとして、大項目評価と総括がある。評価された側としても見やすく、市民としても見やすいものではないか。資料にある評価基準の表にコメントがあるような形である。

評価項目、評価の内容、点数、備考、総評がある。今回の評価で総評をつけるかどうかは考える必要があるかと思う。備考としての文章は3行ほどで簡潔に記載されている。

(河原委員長)

・委員のみなさんは小項目の評価は何段階が良いと思うか。

(恩田委員)

・あまり細かいと小項目の評価が難しいかと思う。今の3段階を5段階に増やすとどんな文言での評価になるのか。

(林委員)

・あえて私の感覚で表現すると、たとえば基本方針についての評価は「5 日本全国どこでも通じて、どの言語にも翻訳可能で、記載ぶりも素晴らしい 4 内容は充実している 3 内容について少し手直しはしたいが、問題ない 2は内容としてはダメだが、方針は作成されている 1は明文化されていない」というようなものである。

(事務局)

・表現が難しい部分はたくさんあるかと思う。項目によっては、5段階にそぐわない項目もある。

(河原委員長)

・では、小項目評価は基本5段階で、項目ごとの段階の表現については、事務局に任せる。小項目をまとめた項目評価の部分については、委員のみなさんはどう考えるか。コメントでの記載があれば、委員会の評価としても見え方がいかと思う。

(おち委員)

・小項目は1～5にして、最終的にA, B, Cにすればいかと考える。  
案のものだと、小項目もABC評価のため、項目評価が対比されてしまうように感じる。

(河原委員長)

・では、小項目を1～5で評価し、合計点でABC評価をする形でまとめることとしたい。また、コメントでより詳細な評価を述べる形にするということの問題ないか。

(異議なし)

評価項目の内容については、いかがか。案は前回の評価項目とほぼ同じか。

(事務局)

・救急相談センターについては、業務内容が大幅に変わっているので、抜本的に見直しを行った。夜間急病センターについては、ほぼ同じ内容である。

(林委員)

・夜間急病センター部分の評価の中の、「6 患者に関する説明責任」について、診療記録が適切に管理されているかチェックが必要である。

(河原委員長)

・では、事務局には項目の追加をお願いしたい。  
項目について、この場で指定管理者側の意見を聞いても問題ないか。

(事務局)

・問題ない。

(指定管理者)

・S評価が無い場合の市民目線について不安がある。項目については、特に意見はない。

(河原委員長)

・A評価でも、高く評価したい部分は、委員会側としてもきちんと評価したいと考える。

(事務局)

・さきほど林委員から、評価基準項目ごとにコメント欄を追加したほうがいいとの意見があったが、評価シートにまとめたほうがやりやすいか、どちらがよいか、意見を伺いたい。

(林委員)

・評価を書くという意味では、評価シートの方が記載しやすい。ただ、評価基準項目ごとにコメントが記載してあるほうが、評価側は大変だが、市民の方は見やすいと考える。

(恩田委員)

・評価シートが縦になっているので、見やすさを考えると、横長の形でコメントを入れられる形にすればどうか。ひな形にある、選定評価委員会委員意見のセルを評価項目横に持ってくる形である。

(河原委員長)

・全部の小項目にコメントを記載するか、気づいた部分のみコメントを入れるか、考え方だと思う。小項目の評価はまとめる必要がある。

(恩田委員)

・小項目ごとの評価にコメントを入れると、2～3行でもコメントがかなり多くなってしまいかと思う。

(林委員)

・5段階の場合、段階の評価によってコメントの有無があっても良い。

(事務局)

・委員の方には評価基準項目一覧の資料をベースに、評価をいただきたい。レイアウトについては、いただいたご意見を踏まえ事務局で再度検討する。

(河原委員長)

・では小項目評価については、5段階とし、コメントが必要な評価は5、2、1とする。様式については、事務局に修正をお願いする。

事務局の修正案については、委員長である私と事務局で確認し、確定としてよろしいか。

(異議なし)

議事は以上である。

議事以外のことで質問があれば、お願いしたい。

(恩田委員)

・業務について、以前行っていた小児救急電話相談が救急相談センター（#7119）になったとのことだが、小児救急電話相談にかかっていたような、福祉の立場として育児相談等を受ける窓口は残されているのか。

(事務局)

・小児救急電話相談（#8000）については、神奈川県で事業が行われている。

(おち委員)

・119番にかかってきた救急車を呼ぶべきか等の相談を受ける窓口を、かつて消防局でも行っていたと記憶しているが、それと#7119との関係はどうか。

(事務局)

・平成29年4月から、出動する案件ではないと判断された場合は、利用者の了解をとったうえで、#7119に転送されるようになった。もし#7119で救急車と判断された場合は、119番に逆転送という形もとっており、相互に協力する形となっている。

(質疑 了)

(事務局)

・次回は、現地確認と、指定管理者の自己評価の質疑応答を予定している。

第2回の日程については10月末～11月の開催を予定しているが、調整の上改めて連絡としたい。